

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きいろいリボン～たいようのひろば～		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 27日		～ 2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2025年 2月 27日		～ 2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童とのコミュニケーションを、互いに楽しんでいる。	①発話や発生が無い児童、伝え下手な児童とも、気持ちの表現をキャッチし、寄り添う支援を意識している。	①「児童から学ばせてもらっている」意識を持って、知りえた情報を、スタッフで共有する為に、スタッフ間のコミュニケーションも、より図っていく。 ②研修や勉強会への参加
2	活動プログラムが、充実してきた。	①重複しないように工夫している。以前に実施したことのある活動プログラムの場合は、一工夫して、全く同じにならないようにしてる。 ②児童の「できるようになった!」「できた!」の自信に繋げる為に必要と判断される活動プログラムは、定期的に繰り返し継続している。 ③直接支援員のアイデアを重視している。	①PDCAサイクルを意識して、文書化し、振り返りをし、より丁寧で効果のある療育活動につなげる。 ②児童からの「○○やりたい」「○○に行きたい」などの要望を受け、活動プログラムに反映させ、児童と一緒に活動プログラムを組み立てていく。
3	おやつを、市販の菓子類ではなく、可能な限り手作りして提供している。 腹持ちがよくなっているためなのか?療育後半の時間帯でも、児童の心理的安定が見られるようになった。	①事業所にて、プランターで野菜を育て、収穫し、その野菜でおやつを作っている。 ②食わず嫌いや偏食傾向のある児童にも、一口だけでも食べてもらい、少しずつ、食べられる食材を増やしている。ご家族からも「食べられるようになった物が増えた」などの感想が聞かれるようになった。	「今日のおやつ、何?」と楽しみにしてくれる児童が増えるよう、いろいろなメニューにチャレンジしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援方法についての、スタッフ間の情報共有が不十分である。	①午後から出勤するスタッフとの、申し送りをする場、児童との関わりについて、気軽に意見を交わす場が、ミーティングだけになっている。 ②スタッフ間のコミュニケーション不足 ③スタッフ間で、遠慮している関係性が見られる。 ④スタッフ配置が最低限になっている為か、日々の担当業務だけに追われてしまっているのではないか。	①午後出勤のスタッフとのコミュニケーション、申し送りををしっかりと実施する。 ②スタッフ同士のレクの時間を作る。活動プログラムに落とし込めるようなメニューで取り組んでみたい。 ③戶外活動の安全管理の面で、視察に行く場合は、情報交換だけでなく、一緒に同行していきたい。 ④「福利厚生」として、月一スタッフランチ会を実施したいと、本社へ提案する。 ⑤チームビルディングの社内研修の実施
2	戶外活動に、安全管理上や金銭面、距離や時間などの関係で、実施が出来ないこともある。	スタッフの人員上、安全管理が難しい。	イベントに頼らず、事業所で出来る活動内容(特に、生活・健康面)を考案する。 ・清掃活動→やったことがない。自立への支援 ・買い物学習→選ぶことが出来ない。自己決定の支援 ・外食→注文など体験学習 ・公共交通機関の利用→自立生活への体験学習
3	おやつを作るスタッフを固定していた為、急な休みになった場合に、慌てて準備することになっている。	①おやつを作るスタッフを固定していた。 ②急な休みの連絡が、そのスタッフの出勤時間ギリギリになる場合も多い。	全スタッフで協力して調理していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	きいろいリボン～たいようのひろば～
------	-------------------

公表日 年 月 日

利用児童数 6 回収数 6

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4	1				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	1	2		2		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4			1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	4	1				
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	4			1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5					

	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4	1				
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1	3		1		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。		1		4		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	5					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	1	1	2		季節のイベントとして、親子参加出来るイベントを開催してみたい。まずは、毎年活動でやっている「餅つき」なら、実施しやすいと考えるので、次年度、実現できるよう努める。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5					
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	2	1		2		

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2			3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4			1		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2			3		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	4			1		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	4			1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	5				素敵な先生達に恵まれていると思います	

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	きいろいリボン～たいようのひろば～		公表日			
						年 月 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		児童の気持ちを汲み取りながら支援している	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	2	公休予定のスタッフを、急遽、出勤に変更することがあった。振替休日に対応している。	①最低限のスタッフ数となっている。 ②急な休みが出た場合の調整が困難。 ③安心して休めない。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		クールダウンや午睡をとる際に使用できる。	相談室（個室）内のレイアウト変更で、より広々と活用しやすい環境設定が必要。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	2	振り返りは、日々の朝夕のミーティングで実施中。	①「活動内容計画書」はあるが、今年度の下半期は、利用者増員やスタッフの体調不良での休み続きなど、臨機応変な現場対応が優先となり、文書作成までの丁寧な業務遂行が出来ていなかった。 ②より丁寧な支援、児童の満足度につなげる為、活動計画書のPDCAサイクルを意識して活動実施したい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1		年間計画をもって、実施する必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2		外部評価を設置していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			発達外来の医療機関、児童発達支援センター、こども未来課、障害福祉課、保護課、子育て支援センター、学校、スクールソーシャルワーカーなど、必要に応じて、電話や文書で情報共有や連携をしている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2		一日出勤のスタッフとは、ミーティング時に情報共有しているものの、午後からの出勤スタッフに対しては、不十分だったと気づかされた。申し送りの手段の工夫などで、情報共有を充実させる必要がある。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	1	①児童発達支援センターと連携は、主に、児発管が対応している。 ②児童発達支援センターで受けた地域相談支援で、当事業所の利用児童の場合は、センターから情報共有の連絡も頂いている。	連携している内容について、全スタッフへの情報共有を、充実させる必要がある。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	2		地域のイベントには、戸外活動として参加しているが、「交流」までは出来ていないことに気づかされた。利用児童が通園している園と掛け合って、交流出来る場の提案を試みる。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3		ペアトレの有資格者ではあるが、実施出来ない。ペアトレが必要なご家族があるので、開催できるよう努める。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1	契約時、モニタリング時などを活用し、主に、児発管が対応している。日々の家族からの問い合わせがあった際は、直接支援員が対応していることもある。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	3		季節のイベントとして、親子参加出来るイベントを開催してみたい。まずは、毎年活動でやっている「餅つき」なら、実施しやすいと考えるので、次年度、実施してみたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	2	3		①「たいよう通信」だけでなく、オフィシャルラインの活用を充実させたい。 ②日々の連絡だけでなく、次年度は、写真や日々の写真や動画などをオフィシャルラインで掲載することを実施したい。 ③児発管だけでなく、全スタッフで「たいよう通信」などの作成を分担していきたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		名前を表に出さない	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3	現時点では、店舗隣にある介護保険事業所と、「スポーツの日」「ハロウィン」「餅つき」に交流がある。	季節のイベントとして、地域の方々も参加出来るイベントを開催してみたい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2		法定研修は、年間計画で実施していきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1	毎月、活動プログラムの中で、避難訓練を実施。	次年度は、年間計画をもって、意識して実施する必要がある。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	対象児童がいないので、指示がない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		計画書までは作成されていないが、日頃から、安全管理の意識をしたお互いの意見交換がある。	年間計画をもって、実施する必要がある。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		声掛けやLINEなどを活用している。ご家族からの質問や確認があった場合、その都度説明している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2	3	可視化された物は作成されていないが、日頃から、ヒヤリハットを意識をしたお互いの意見交換がある。	ヒヤリハットを文書化し、実施する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修、オンデマンドを利用している	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2	1		身体拘束について、スタッフの知識や認識の確認を、研修などで図る。計画書の見直し確認をし、該当すると予測される利用児童のご家族には、説明など丁寧な支援を実施する。	